

令和7年9月10日

令和7年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人郷学舎
アルスコンピュータ専門学校
学校関係者評価委員会

自己点検評価委員会が作成した令和6年度自己点検・評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を実施しました。令和7年度学校関係者評価委員会について、下記のとおり報告します。

記

1. 開催日時

令和7年8月27日（水） 14:30～16:50

2. 場所

アルスコンピュータ専門学校 101教室

3. 学校関係者評価委員

【関連業界関係者】

- ① 栗原 良太 氏（熊谷商工会議所 副会頭）
- ② 大島 匡 氏（医療法人社団おおしま会 くぼじまクリニック事務長）
- ③ 佐々木 喜興 氏（株式会社シーキューブソフト 代表取締役）
- ④ 朱 力敏 氏（ソホビービー株式会社 代表取締役）

【教育関係者】

- ⑤ 新井 秀明 氏（ビジネス教育実践学会 副会長）

【地域代表】

- ⑥ 中村 雅俊 氏（一般社団法人さいしんコラボ産学官 専務理事）

【保護者代表】

- ⑦ 野口 和江 氏（在校生保護者）

【卒業生代表】

- ⑧ 栗原 謙一 氏（第5期卒業生）

【事務局（学校側）】

- ① 新井 公一 （学校法人郷学舎 理事長）
- ② 山田 典男 （アルスコンピュータ専門学校 校長）
- ③ 正田 淳一 （ 〃 副校長）
- ④ 長瀬 あゆみ （ 〃 教務部課長 情報ビジネス科学科長）
- ⑤ 吉橋 大樹 （ 〃 教務部主任 情報システム科学科長）
- ⑥ 小関 士朗 （ 〃 教務部主任 A I システム科学科長）
- ⑦ 箆原 智恵 （ 〃 教務部特務 保健・医療ビジネスコース担当）
- ⑧ 戸川 千詠子 （ 〃 教務部特務 国際 IT ビジネスコース担当）
- ⑨ 田口 紀子 （ 〃 総務部係長）

4. 学校関係者評価委員会 次第

- 1. 開会
- 2. 委員委嘱・委員紹介
- 3. 理事長挨拶
- 4. 校長挨拶
- 5. 委員長の選出
- 6. 協議【新井委員長により議事の進行が行われた】
 - ①学校関係者評価委員会について
 - ②学校運営の PDCA サイクルについて
 - ③学校概要と近況報告
 - ④令和 6 年度自己点検評価について
 - ⑤令和 6 年度重点目標の達成状況報告
 - ⑥令和 6 年度自己点検評価結果の報告
 - ⑦令和 7 年度重点目標について
 - ⑧意見聴取
 - ⑨その他
- 7. 閉会

5. 学校関係者評価委員会報告

～各項目に関する学校関係者評価委員の評価・意見～

重点目標①について

(1) 特色と魅力ある職業教育・キャリア教育の開発・推進

- 人間力の育成について、オープンキャンパススタッフとしての活動に自ら参加し、先輩との交流を通じてコミュニケーション力が向上すると同時に、就職に向けて良い経験になっていると思います。

重点目標②について

(2) ARS 版 DX の推進（業務システムの改善と利活用推進）

- DX 推進に関する継続的な努力と成果が感じられ、充実した内容であると思います。
- DX による業務効率化が進んでおり、効率化した時間を教育活動に充てている点は、非常に良い循環だと感じました。
- 業務システムの内製化については、コストパフォーマンスを考慮して実施されているのだと思いました。
- 中小企業や行政では同ソフトが使用されるケースが多くある為、学校で使われている事例を中小企業に伝えることができるのではないかと思いますので、情報発信や活用の視点に対する一つの切り口になりうると思います。
- クラウドベースのマーケティングツールを学校で活用しているケースは初めて聞きましたし、学校でも民間企業と同じように、顧客・集客の為にメールマガジンの配信や KPI の週次確認、アフターフォローまでしっかり行っているのが印象的でした。
- クラウドシステムを活用したデジタルマーケティングや先導募集の取り組みは、高校でも共通の課題であり、非常に参考になりますので、今後、具体的な活用方法について教えていただけるとありがたいと思います。
- こうしたデータ分析の結果が、新しい教育事業の立上げにつながっていて、まるで企業が商品開発をするように、学校でもコースや授業に反映されているのがすごく良い循環だと思います。

基準1. 教育理念・目的・育成人材像

- ビジネスや教育の場において、「知性」や「道徳」といった価値観が重要だと考えています。若い人たちが「知徳」や「善悪」や「人間性」について考える機会を持つことが、社会全体の成熟につながるのではないかと思います。世界平和の根源は、いかに人間が知性を高めるか、ということにあると信じています。
- 専門学校に限らず、様々な教育機関に期待することは、自分がやりたい事に対して何をどう学べば良いのかといったことを自分で考える「学ぶ力」を是非、教えて育てる教育を期待しています。

基準 2．学校運営

- 特になし

基準 3．教育活動

- 最近では翻訳機能や生成 AI などを使って、海外とのやりとりも行っています。こうした技術を学生が学び、地域の企業でどう活かせるかという点に、今後の連携の可能性を感じています。
- IT 業界の仕事は今後、次の 3 つに分かれていくと考えています。
 - ①小学校からプログラミングを学ぶようになり、プログラム作成やアプリケーションシステムの作成など、AI による自動化により誰でもできるようになる。
 - ②AI や LLM 研究が進み、誰でも利用できるようになる。
 - ③高度な専門技術を持つ職人的エンジニア（OS 開発など）OS の開発は AI ではかなり難しい事から、専門学校は特に③の分野での人材育成に貢献できると考えています。
- 新入社員が起こしたセキュリティインシデントの事例から、情報セキュリティに対して自覚し、自分が何にどのように気をつければ良いのかを習慣化する事でリスクを避けるといった重要さが全然わかっていないということを感じています。そのような事からも、学校教育の中で、リスク回避や習慣化の重要性をもっと伝えて欲しいと要望します。
- IT 業界では「QCD（品質・コスト・納期）」の 3 つは一番重要で不可欠です。学校ではなかなか身につけにくいことではありますが、是非、学校でその入口のところを強く、からだに染み込ませて頂ければ良いと思っています。
- 4 月に入学してから約 4 ヶ月、娘が毎日楽しそうに通っており、親として安心して見守ってます。夏休み前にはすでに 3～4 つの検定に挑戦し、合格したことは本人の自身につながっている様子です。

基準 4．学修成果

- 学生による授業アンケートの満足度が 94.8%と非常に高い数値だったのも印象的です。先生と生徒の距離が近いことが教育成果に良い影響を与えていると感じます。
- 就職内定率の高さは、本当に素晴らしいことだと思います。
- これまで多くの卒業生が本院に入社してくれていて、今も頑張っている姿を見て、本当に嬉しく思っています。
- 卒業生が社員として活躍しており、現在は開発部門の部長として会社の中心的な役割を担っています。本校から今後も有能な人材が輩出されることを期待しています。
- 御校出身のベトナム国籍の社員が、コツコツ努力する姿勢を見て、「この学校の学生なら安心だ」と感じています。そのような信頼感から、御校の留学生を積極的に採

用したいと思っています。これは、他の企業も同じように感じているところがあると思います。

- 外国人留学生の就職は難しい部分があり、就職がうまくいかずに母国に帰ってしまうケースもあります。少子化が進み人材不足の中、専門学校で教育を受けた留学生が、日本でしっかり働いてもらえるように、大学や専門学校における工夫や努力の余地があると思います。

基準5．学生支援

- 「就職内定率や検定合格率は分かりやすいけれど、それだけではなくて、学生一人ひとりが入学してからどれだけ成長したかが大事」という点は、まさにその通りだと思います。数字には出にくい部分ですが、すごく重要な視点です。今後も先生方の手厚いサポートをぜひ続けていただきたいと思います。
- 娘の話を通じて学校の取り組みや成長を実感しています。まだ1年少しあり、今後つまづくことはあるかもしれませんが、サポートをよろしくお願いします。
- 採用活動に際し、当社もAI技術を活用して、学生が自分に合った就職を見つけるための支援をしたいと考えていて、Chat GPTのような技術を使って「壁打ち」的な相談ができるような仕組みを作りたいと思っています。このような取り組みは、ミスマッチも起こりにくく、卒業生の企業データも蓄積されていくので、将来的にいろんな場面で活用される可能性があると思います。
- 留学生の就職活動には課題もあると感じています。日本の就職活動のタイミングが分からず、在留期限ギリギリになってしまっていて、結局就職できなかったケースもありました。原因としては、就職活動の仕組みが分かりづらいことや、コミュニケーション力の不足があると思います。2年間という短い期間でそれを改善するのは難しいですが、可能性はあると思います。
- 「理系女子」について最近よく耳にする言葉ですが、文部科学省も理系女子への支援を強化しているようです。今後も理系女子の支援について、しっかり取り組んでいただけたらと思います。
- 転職時に取得資格の確認が必要な時があります。最近では1つの会社に定年まで勤めずに、転職をする方が多いと思うので、卒業生向けに情報を提供する支援をしていただけたらと思います。
- 卒業生が再就職や転職時に必要なスキルを補うための支援を学校が提供できると良いと思います。卒業生向けの職業訓練的なサポートがあると、学校への信頼や次世代への進学意欲にもつながると思います。

基準6．教育環境

- 同年代の友達ももちろんいますが、クラスには外国籍の学生も在籍しており、娘はスリランカ出身の年上の学生と仲良くしているようです。異文化交流の機会があり、

親としても良い経験だと感じています。アルスに入学して良かったと思っています。

- 教員との距離が近く、授業以外の話もできる環境があることに、娘が安心感を持っていて、学校生活全体が楽しく、充実している様子が伝わってきています。
- 令和7年度の重点目標の中で、「多様性」や「留学生」に関する話題が何度も出ており、国際化が進む中で、多国籍の学生と一緒に学べる環境が整ってきていること、そして企業がグローバルな競争に勝つためにも、多様な人材を育てることが重要だという考えが示されていました。

基準7. 学生募集と受入れ

- 学生募集について、マーケティングや広報の取り組みは、かなりしっかり進められている印象です。学校のニュース等を卒業生や保護者にも配信することで、更に学校の情報発信力を高められるのではないかと思います。
- AIの進化で単純作業が減っていく中で、なぜ医療分野に特化した人材が今後も増えていくのか、その点はまだ少し疑問に感じています。

基準8. 財務

- 特になし

基準9. 法令等の遵守

- 特になし

基準10. 社会貢献・地域貢献

- 地域の中小企業との連携など、今後の可能性を感じました。
- 地域連携・地域貢献に力を入れてゆく方針に共感します。
- BIツールの活用について取り組まれています、連携授業等で交流できる機会があれば嬉しいです。
- 最近では、30代で大手企業を辞めて起業する人も増えており、学生の中にも、将来的に起業を考えている方がいるかもしれません。そうした方々と地域の企業と学校が連携できるような仕組みがあると良いと感じています。
- 御校の教員による教育研修をして頂き、研修を受けた教員からは「とても分かりやすかった」「教えるスキルが高くて、こちらも勉強になる」と好評でした。ぜひ今後ともご指導いただけるとありがたいです。
- 国の留学生受け入れ目標は40万人とのことですが、実際に市内を歩いていても、留学生が増えているのを感じます。以前は中国の方が多かった印象ですが、最近はネパール、インド、スリランカなど、南アジア・西アジアの方が多いように思います。日本人学生と留学生の共同プロジェクトはとても意義があると思いますし、今後も期待しています。

- 中国・韓国・ミャンマー出身の社員を採用した経験ありますが、外国人の方にいつもお願いしていることは、日本語でのコミュニケーション力が重要であり、読み書き含めて高めてほしいとお願いしています。日本人は残念ながら英語が良く話せませんし、苦手です。しかし、中小企業では語学支援が結構難しく、どうすれば良いのかと考えているところですが、学校での日本語教育が高いレベルになることを期待しています。
- 近所でも外国人の方が増えてきており、地域の中での交流や理解がますます重要になってきています。御校にも多くの留学生がいることを知り、時代の変化を実感しています。偏見ではなく、どう交流していくかを考えることが大切だと思います。
- 特に「多様性」や「国際交流」に力を入れていることがよく分かりました。即戦力となる人材への支援や、産学連携による再教育の取り組みなど、しっかりされている印象です。
- 現在は留学生との交流が中心ですが、海外研修旅行を見合わせている状況から、学生が海外に出ていく機会も復活させて欲しいと思います。若いうちに海外を経験することは、視野を広げるうえで非常に価値があります。希望者向けに短期研修（例：夏休み 1 ヶ月）などの機会を検討いただきたいと思います。できれば若いうちに英語圏の方に行き世界標準を経験してくる、世界を知ることは非常に影響が大きいのではないかと考えます。海外に行くと、とても成長しますし、外国人へのアレルギ―や恐怖症がなくなります。英語が話せなくてもなんとかしようとして非常にポジティブな人間性が出てきます。それはとても大切なことと思いました。
- 熊谷市の国際交流協会なども活動を再開しているため、地域と連携した国際交流の機会づくりを期待しています。熊谷市のスマートシティ構想など、地域の IT 関連活動にアルスの学生がもっと関わる機会があると良いと思います。
- 学業が忙しいことは理解しつつも、地域活動への参加が学生の成長や学校の認知度向上につながると期待します。

【学校関係者評価委員会総括】

自己点検評価項目を見ると概ね良好となっており、改善が必要となっている部分については引き続き改善に努めてほしい。学校関係者評価委員会として、令和 6 年度自己点検評価報告書の内容について確認及び承認を行いました。

以 上

【学校関係者評価委員会からのご意見を受けて】

委員の皆様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、地域に根差した専門学校として使命感をもって教育活動をすすめてまいります。

今後も引き続き、学修成果の可視化、計画的な指導を行い、学生支援についても学生・父母等との連携を更に強化し、継続的な取り組みを行っていききたいと思います。